

令和元年度（2020年度）学校評価報告書

令和2年（2020年）3月30日

北海道紋別養護学校長 仲 谷 智

1 本年度の重点教育目標

「子供たちの未来につながる授業の充実」

教育方針キーワード 「学びの履歴の検証・改善・連続性」

経営方針キーワード 「安心・安全・安定」

2 令和元年度学校評価分析結果と改善の方策

項目・方策	職員評価	保護者評価	関係者評価
○全項目について	・全項目の平均値は教職員 3.4 であった。個別の指導計画など、重点項目の中でも学習指導そのものの取組が低評価になっている。研究等の取り組みによって多くの課題が明らかになったことから、低い評価になっている。特に次の項目について「個別の指導計画」の充実とそれに伴う、効果的な会議運営、報告連絡相談の徹底に取り組む必要がある。	・全項目の平均値は 3.3 であった。低評価の項目が「新しい高等部の在り方について、保護者に説明」が最も低く 2.6 で、教育課程の改善について説明や、日常の職員の対応について課題が現れたものと考えられる。	・職員によっては言われなければ課題に気づけない人もいるのではないかと。日常から服装なり、言葉なり本当に基本的なことを上司や先輩教員から指導してもらうなど、次年度はこのような評価にはならないようにして欲しい。
改善の方策	・教職員が保護者を含めた外部評価を意識した計画・実施や、説明責任についての考え・自覚が不足していることが大きな問題であると考え。そのためには、まず保護者へ資料を用いて次の点について教員一人一人が説明責任を果たしていく。 ・目的を明確にした個別懇談の実施 ・目的を明確にした参観日の実施 ・担任としての学級経営や個別の指導計画の意図を明確に説明		
○いじめ等の体制整備、児童生徒の見本となる言動等	・昨年度から重点として取り組んでいる事項だが成果が上がらなかった。学級運営等、保護者への指導に関わる説明の不足と、教師一人一人が指導者としての自覚が不足であった。教師間で指摘し合う体制作りに一層努めなくてはならない。	・いじめ等の体制整備、児童生徒の見本となる言動のいずれも低評価であった。いじめ等の取り組みについては、学級担任等からの取り組みの説明、学級経営の取り組みについて説明が不足しているものと考ええる。	・どんなときも子どもたち一人一人を一人の人間として認め、関わるのが大事。「見えないところが大事」であることを念頭に指導して欲しい。教師の師は「教えるのは学ぶの半ばなり」という言葉にもあるように、教師は教えながら、学んでいる。ということを理解し、いつでも、どこでも同じようにしていければ良い。
改善の方策	教師は常に児童生徒の見本であり、一番影響力のある存在ということを常に自覚しなくてはならない。職員の服装や言葉遣い児童生徒への呼名は教職員への指導を更に進めたい。 また、常に教師は、児童生徒、保護者、地域の方々に注目されているという意識を保ち続けなくてはならない。 ○チームで作る授業（日々の指導反省の充実、一人一人の役割と責任の明確化） ・指導打ち合わせの工夫 ・主体的な動き出す手立ての工夫 ・教師一人一人の役割を明確にした連携		

○報告・連絡・相談の徹底	・日常の教員間の相談、連携が不足しており、授業改善に向けて大きな課題であった。また、事故を予防する手順の改善等の取組を行ったが、連携の不足から共通理解ができておらず、改善に時間を要していた。	・評価点は3.5で低くはなかったが、「高等部のあり方について」、「関係機関との協力体制」等、学校からの周知が不足している事項があり、保護者との連携がさらに必要であったと考える。	・報・連・相が大事と言いつけるのではなく、必要性の理解を十分に指導することが必要である。報・連・相に続いて「だ ね」という言葉もある。「だ」は「だしん」「ね」は「ねまわし」を意味している。
改善の方策	・保護者へも対応する部署や職員によって差を感じさせていることが考えられ、教育内容に疑問を抱かせてしまうことにつながりかねない。これまで以上に児童生徒の情報共有、連携を図るため、学校寄宿舍間では校内PCネットワークを活用した情報共有を行う。また「会議目的の明確化」「事前の資料配付」等を確実に行うことで、報告、連絡事項の共有と効率的な会議運営を行う。 ・指導打ち合わせの工夫（会議の精選及び推進方法の工夫） ・緊急時対応時の基本的な知識と技能の習得 ・保護者、関係機関に的確な説明できる記録の蓄積		
○全体のまとめ	今回の評価結果から、一番の課題は、「教職員」と「保護者」の評価差に大きな開きがあることと考える。原因としては教職員が保護者を含めた外部評価を意識した計画・実施や、説明責任についての考え・自覚が不足していることが大きな原因と捉えた。 本校は、「子ども第一義」のもと、保護者、地域など社会全体に貢献しなければならないことを念頭に指導、業務を進めることが必要であった。 また、「学校は、児童生徒の見本となるような言動を行っている。」（保護者評価 2.9 ワースト 2）「学校は、いじめ等の早期発見への体制整備を行っている。」（保護者評価 3.0 ワースト 3）の児童生徒の指導に直接的にかかわる事項について保護者評価が低いことが明らかとなった。昨年からの課題であり、取り組みを進めていたが改善に至っていない。教師間で指摘し合う体制作りに一層努めなくてはならないことと合わせ、児童生徒を前にした言動も、例え指導上必要なことであっても配慮して行う、児童生徒の前では、特に注意を払う必要について教師間の共通理解が必要である。 教師は常に児童生徒の見本であり、一番影響力のある存在ということを常に自覚しなくてはならない。職員の服装や言葉遣い児童生徒への呼名は教職員への指導を更に進めたい。常に教師は、児童生徒、保護者、地域の方々に注目されているという意識を保ち続けなくてはならない。 更に、職員間の報告、連絡、相談がもう一方の大きな課題となっている。学部、分掌、学習指導グループごとの連携を日々取り組むことが課題解決のポイントとなっており、学部連絡会、運営員会等をより活用し、情報共有に努めなくてはならない。 これらの課題について具体的な取組を行うために、「北海道紋別養護学校グランドデザイン」に学校評価指標を設け、またその具体策についても職員へ周知し、各学部分掌組織で取り組む。また、この学校評価指標を用いて反省を行うことで、達成度について各個人、学部で把握しさらに課題を明らかにする。		

令和元年度 紋別養護学校 学校評価集計結果

職員全体平均	3.4	全体平均	3.3
保護者全体平均	3.2		

赤の番号は、保護者評価項目、及び共通項目の番号です

評価項目		対象	平均値	評価4	評価3	評価2	評価1	無回答
児童生徒について	1 将来の願いに基づき、客観的な実態把握(発達検査等)のもと個別の指導計画の目標を見直している。・学舎共通した個別の指導計画の目標設定をしている。 1 (学校は、児童生徒の未来の願いに基づき、実態把握(発達検査等)のもと、個別の指導計画の目標を作成している。)	職員	3.1	43%	34%	19%	0%	
		保護者	3.4	61%	26%	10%	0%	0%
	2 個別の指導計画を基に年間指導計画の作成及び細分化した授業目標による実践と客観的な評価の推進を行っている。	職員	3.2	53%	23%	21%	0%	
		保護者						
	3 ※ 2 児童生徒を尊重した校内の適切な言語環境及び体罰のない教育環境の構築ができている。 (学校は、児童生徒の人権を尊重した言葉遣いや体罰のない教育を行っている。)	職員	3.5	65%	23%	9%	2%	
		保護者	3.2	55%	29%	7%	0%	7%
職員について	4 3 主体性をはぐくむ教室掲示や廊下等の意図的な掲示環境の設定ができている。 ・掲示の意図を説明できるようにする。 (学校は、主体性をはぐくむ教室掲示や廊下の掲示ができている。)	職員	3.6	72%	25%	2%	0%	
		保護者	3.5	61%	32%	3%	0%	0%
	5 ※ 4 児童生徒が安全に活動できる施設設備及び教材備品等の配置を行っている。 ・計画的な備品、教材教具の購入や適切な維持管理、修繕、廃棄ができている。 (学校は、児童生徒が安全に活動できる施設設備になっている。また、安全に教材備品等の配置を行っている。)	職員	3.4	67%	16%	14%	2%	
		保護者	3.2	65%	16%	7%	0%	10%
	6 ※ 5 いじめ等の早期発見への体制整備を行っている。 (学校は、いじめ等の早期発見への体制整備を行っている。)	職員	3.6	79%	5%	14%	0%	
		保護者	3.0	55%	26%	0%	3%	13%
	7 6 授業研究等を中心とした積極的な実践交流の推進及び次の授業につながる授業評価の充実を行っている。 ・一人一授業の実施する。 (学校は、児童生徒一人一人の実態にあった授業を行っている。)	職員	3.4	64%	19%	11%	4%	
		保護者	3.5	65%	26%	3%	3%	0%
	8 7 チームティーチングを生かした指導体制の見直しを行っている。 ・専門性を活かし、最低人数の教師で授業を行う。 (学校は複数の教員と連携しながら指導を行っている。)	職員	3.2	43%	42%	11%	2%	
		保護者	3.2	61%	23%	3%	0%	10%
	9 8 主体的、対話的、深い学びの視点による手立てを明確にした授業改善ができている。・言葉の指示に頼らない手立ての工夫をする。 (学校は、児童生徒一人一人の実態にあった見てわかる教材を使って指導を行っている。)	職員	3.2	42%	38%	17%	2%	
		保護者	3.2	58%	26%	3%	0%	7%
	10 ※ 新分掌の役割及び業務の明確化を図り、効率的な分掌運営を推進している。 ・部長の役割及び業務内容を明確化する。	職員	3.4	67%	19%	7%	4%	
		保護者						
	11 ※ 効率的な会議運営の推進を行っている。 ・会議の意義の共通理解と推進方法の工夫をする。	職員	2.8	37%	19%	37%	4%	
		保護者						
	12 学舎が児童生徒を中心に於いて対等な立場で指導方針を検討する学舎懇談の工夫ができている。	職員	3.5	70%	19%	6%	4%	
		保護者						
	13 9 高等部の在り方に基づいた特色ある教育課程の改善を行っている。 (学校は、新しい高等部の在り方について、保護者に説明を行っている。)	職員	3.3	66%	19%	4%	4%	
		保護者	2.5	48%	16%	7%	0%	26%
	14 確かな力を身につけるための教育課程の改善を行っている。 ・合わせた指導と教科の関連を明確にした授業を実践する。・校内研究での検証をする。	職員	3.5	68%	17%	11%	2%	
		保護者						

	15 10	学部の系統性を明確にした教育課程の改善を行っている。 (学校は、児童生徒の実態に応じて、段階的な指導を計画的に行っている。)	職員	3.5	68%	19%	9%	2%	
			保護者	3.4	61%	26%	7%	0%	0%
	16 11	報告・連絡・相談の徹底ができています。 (学校は、児童生徒の指導や事故などがあつた際に、保護者に報告や連絡、相談を、迅速に行っている。)	職員	3.0	39%	25%	33%	2%	
			保護者	3.4	68%	19%	7%	0%	0%
	17 12	実践に基づいた緊急時対応訓練及び救急救命等訓練の研修方法の工夫をしている。 (学校は、火災や地震、怪我等の児童生徒の命に関わるような緊急時の対応についての訓練や対策を行っている。)	職員	3.6	81%	12%	2%	0%	
			保護者	3.2	58%	26%	3%	0%	7%
	18 ※	大規模災害時における迅速な対応や緊急時の動きを意識して、備えている。	職員	3.5	70%	16%	11%	0%	
			保護者						
	19 13	児童生徒の見本となるような言動を実践している。 (学校は、児童生徒の見本となるような言動を行っている。)	職員	3.2	56%	23%	14%	4%	
			保護者	2.9	48%	26%	7%	3%	13%
	20 14	学校予算や学習費の予算、決算について説明を行い、適正に執行している。 (学校は、予算と決算について説明を行い、学習費を適正に運用している。)	職員	3.7	90%	4%	0%	0%	
			保護者	3.5	71%	16%	7%	0%	3%
保護者	21 15	個別の教育支援計画の目標と授業の関連性について説明をしている。 ・個別の指導計画、年間指導計画、授業目標及び評価等PDCAサイクルについて説明と同意を得ている。(学校は、個別の教育支援計画の目標と授業の関連性(個別の指導計画や授業の目標や評価)について、保護者に説明を行い同意を得ている。)	職員	3.7	83%	8%	8%	0%	
			保護者	3.6	74%	16%	7%	0%	0%
	22 16	各学部の進路指導計画の作成を行っている。 ・各学部ごと説明会を開き適切な情報提供を行う。 (学校は、進路説明会や個別の進路懇談を開催し、各学部段階での進路に関する情報発信を行っている。)	職員	3.3	59%	19%	15%	6%	
地域			保護者	3.5	71%	23%	0%	3%	0%
	23	保護者との連携を適切に行っている。 ・本人、保護者の願いや思いを受け止め、情報を共有し共通理解を図る。	職員	3.5	74%	15%	8%	0%	
			保護者						
	24 17	対等な関係の交流及び共同学習の推進を行っている。 ・行事ではなく、授業での交流及び共同学習を実施する。 (学校は、お互いの人格と個性を尊重し合う共生社会実現のために、交流及び共同学習の推進を行っている。)	職員	3.5	64%	19%	15%	2%	
			保護者	3.4	58%	36%	0%	0%	3%
	25 18	関係機関へ本校の役割についての理解啓発を行っている。 ・本校の役割や取組について理解啓発を行う。 ・関係機関との協力体制を構築する。 (学校は、関係機関との協力体制を構築している。)	職員	3.9	84%	7%	4%	2%	
団体			保護者	3.0	55%	23%	7%	0%	13%
	26 19	近隣にある教育資源の情報収集と活用ができています。 (学校は、社会で活用できる公共施設(図書館やバス、店等)や福祉施設等の情報収集と活用ができています。)	職員	3.4	77%	9%	11%	4%	
			保護者	3.0	52%	26%	10%	0%	10%
	27 20	保護者主体のPTA活動の理解啓発を推進している。 ・保護者が参加する活動内容を検討する。	職員	3.1	64%	17%	11%	4%	
			保護者	3.2	61%	23%	3%	3%	7%
	28 21	計画的な予算の執行ができています。 ・PTA及び後援会の計画的に執行する。(災害時の備蓄品や研修などに関する経費) (学校は、PTAや後援会費等の計画的な予算執行ができています。)	職員	3.6	94%	2%	4%	0%	
			保護者	3.3	58%	29%	3%	0%	7%